

研究主題

特別支援学校における 領域・教科を合わせた指導の充実に関する研究

—領域・教科を合わせた指導の実態調査に基づく授業づくりのための資料作成を通して—

【研究担当者】 田村 典子
 【この研究に対する問い合わせ先】
 TEL 0198-27-2821 FAX 0198-27-3562
 E-mail sien-r@center.iwate-ed.jp

1 領域・教科を合わせた指導の良さ

領域・教科を合わせた指導は、知的障がいのある児童生徒の実態と学習上の特性を踏まえた学習を行うために、必要に応じて取り入れることのできる指導の形態です。この領域・教科を合わせた指導は、日常生活の充実や自立した社会生活の充実を目指しており、児童生徒の知的障がいの状態や経験に応じて、具体的に指導内容を設定するものとされています。本研究では、領域・教科を合わせた指導の良さを次のように捉えました。

- ・興味・関心に応じるような取組により、意欲的な活動につなげることができる。
- ・個に応じた指導内容の設定をした取組により、日常生活や社会生活に必要な知識・技能及び態度を育てることができる。
- ・活動量を確保した取組により、満足感・成就感を味わうことにつなげることができる。
- ・児童生徒が向上心をもてるような取組により、自分の力で活動することにつなげることができる。
- ・良さを生かした役割分担をした取組により、社会生活に向け集団の一員としての意識を育てることにつなげることができる。

2 領域・教科を合わせた指導の充実のための視点

領域・教科を合わせた指導の良さを踏まえて、領域・教科を合わせた指導の充実のための視点を以下のよう
に考察しました。

視点	良さを生かすことができる教師の取組の姿勢
主体性	日課や学習の環境などを分かりやすくし、見通しをもって学習することで、児童生徒が生活に必要な経験を自ら意欲をもち取り組むことができるよう、「主体性」という視点をもち指導に当たる。
学習ニーズ	知的障がいの状態や経験に応じて、児童生徒の今もっている力や良さ、自立につなげるために何が必要であるかなどを把握することで、児童生徒が日常生活や社会生活に必要な技能や習慣を学習を通して身に付けることができるよう、「学習ニーズ」という視点をもち指導に当たる。
達成感	個に応じた活動量の設定や環境の工夫をすることで、児童生徒が目的をもち、十分な活動しながら大きな満足感、成就感を得ることができるよう、「達成感」という視点をもち指導に当たる。
自立性	できるだけ自分の力で活動できる環境を整えることで、児童生徒が成功経験を積み重ね、自信をもつことにつながるよう、「自立性」という視点をもち指導に当たる。
共同性	望ましい社会生活にむけた集団での学習を通して、一人一人に合った役割が得られるよう工夫することで、児童生徒が集団の一員としての意識をもてるよう、「共同性」という視点をもち指導に当たる。

3 領域・教科を合わせた指導の充実のための資料

岩手県内の特別支援学校の教諭に対する、領域・教科を合わせた指導の充実のための視点を基にした調査より、以下のことが分かりました。

- ・領域・教科を合わせた指導においては、授業を行う担当者間で目的や内容、評価の観点を確認されないまま授業を行っていることがあり、共通理解するための視点の理解が必要である。
- ・授業を充実させるために、担当者間で具体的な支援や環境について共通理解しながら実践につなげていく必要がある。

調査を通して明らかになったこれらの課題を改善するために、以下のような資料づくりを行いました。

- ・領域・教科を合わせた指導の充実のための視点について理解するための、「理解編」を作成する。
- ・計画段階における共通理解や授業づくりの改善につながる、「授業実践編」を作成する。

「理解編」

「理解編」は、本研究で示した領域・教科を合わせた指導の充実のための視点について、理解するための資料です。

右の表は、「理解編」の内容です。視点を効果的に授業に取り入れるための取組について示し、一つの内容項目が、1ページ毎にまとめられています。

右下の図は、「理解編」のページの例です。どのように授業に生かすことができるかイメージをもち、授業の見直しや改善について考えることができるよう、各ページは、「見だし」、「ページの内容の説明」、「有効な取組」と読み進むように示されています。

視点	内容
主体性	変化・発展・充実していく学校生活 ・見通しがもてる学校生活 ・目的が持てる学校生活 ・意欲的に取り組める活動内容 ・意欲的な活動
学習ニーズ	・自立した生活を見据えた実態把握 ・日常生活や社会生活の充実のための知識や技能 ・生活年齢に応じた個別の目標 ・一人一人の活動の充実のための支援
達成感	・目的がもてる計画 ・個に応じた十分な活動 ・十分に活動できる環境の工夫
自立性	・社会生活につながる目標 ・児童生徒主体の授業 ・生活年齢にあった活動 ・自信を付ける成功経験 ・自分で分かり活動できる道具や用具の配置 ・自分で使える教材・教具、補助具 ・より自立した生活を目指す取組 ・自分の成果が分かる評価
共同性	・集団の一員としての意識 ・年齢相応の意識 ・教師の役割 ・児童生徒の役割分担 ・良さを生かせるグループ分け

「理解編」の内容

視点と児童生徒の目指す姿

それぞれの視点に基づき、授業づくりにおいてイメージしやすいように児童生徒の目指す姿を表しました。

- 主体性 → 進んで活動に取り組む姿
- 学習ニーズ → 能力に即した活動に取り組む姿
- 達成感 → 存分に活動に取り組む姿
- 自立性 → 自分のもてる力を高めようと取り組む姿
- 共同性 → 仲間や教師とともに取り組む姿

見出し

そのページの中で示されていることについて、問題意識をもって読み進むことができるよう、問題提起をする文体で示しています。

ページの内容の説明

大切なことや必要なことについて理解することができるよう、そのページで示している内容について簡潔にまとめて示しています。

有効な取組

理解を深めることができるよう、実際に授業に取り入れられるような具体的な説明や取組のヒントになる情報を示しています。

- ・授業に生かせるイメージが湧きます。
- ・授業の見直しや改善について考えることができます。

主体性 進んで活動に取り組む姿 1

児童生徒に合わせて年間指導計画を運用していますか？

年間指導計画を立てる立案の際には、児童生徒が進んで活動に取り組むことができるように、主体性を大切に、興味・関心に基づいた計画にすることが大切です。また、年間指導計画を運用する際には、児童生徒の興味・関心や学習の進展に応じて、継続したり、発展させたり、変更したりする、柔軟な対応も必要です。

児童生徒に合わせた年間指導計画の立案

年間指導計画の弾力的な運用

興味・関心のある活動を中心に継続し発展させる

例
学級の全員が好きな「そば」を中心に取り組んでいます。種まきや収穫などの畑の作業、そばを食べに行く、調理、店を開くというように一年間の計画を、興味・関心のある活動を中心に、継続・発展させていくことで、年間を通して意欲をもった取組とすることが大切です。

興味・関心に応じて、発展させていく

例
校外学習で船に乗ってきました。「自分たちも船を造って乗りたい！」という児童生徒の気もちを取り上げ、それに応えるよう、「船を造って乗る」ための学習を展開していきます。このように、児童生徒の興味・関心から生まれた発想を次の学習へと発展させていくことが大切です。

興味・関心に応じて計画を変更する

例
年度当初計画した時には予測できないことに、興味・関心を示すことがあります。例えば「入院している先生のお見舞い」や「壊れたフェンスを直そう」など、生活の中で起こることから取り組んでいくことがあるでしょう。年間指導計画の変更を行い、児童生徒のその時の興味・関心に応じていくことも大切です。

変化・発展・充実していく学校生活

ひとこと

今までどんな内容の学習を積み重ねてきているのか知ることは、児童生徒の興味・関心を知る一つの手がかりとなります。そこで、年度の終わりに年間指導計画により一年間を振り返り、取組の様子や反省を引継いでいくことが、とても参考になります。

年間指導計画を弾力的に運用するためのチェック

- 活動に取り組む児童生徒の興味・関心について、引継ぎや情報交換により教師間で共通理解できているか？
- 児童生徒の発想に共感し、取り上げているか？
- 日常生活の中での児童生徒の奮闘を注意深く観察し、大切にしているか？

「理解編」の例

「授業実践編」

「授業実践編」は、「理解編」により理解した視点に基づき日程の計画や授業づくりの改善につなげていくための資料です。

右の表は、「授業実践編」の内容です。視点に基づいて授業を計画するために必要な内容が手順に沿って順番に示されています。

右下の図は、「授業実践編」の授業づくりの手順のページの例です。視点について授業に生かすイメージが湧き、単元の計画や授業の改善をすることができるように、一つの手順について1ページ毎に、計画の際に大切なことや具体例などがまとめられています。

また、資料の手順に沿って授業の計画を進めていくことができるように、「授業づくりシート」を添付しました。

項目	内容
実践編の活用の仕方	授業の計画、打ち合わせ、授業改善、研修資料
領域・教科を合わせた指導の授業づくりの手順	<ul style="list-style-type: none"> 単元名を決める 授業の目標を設定する 日程の計画を立てる 活動内容と流れを決める 配置図を書く 道具や教材を配置する 個別に必要な環境の支援を考える 個別に必要な教材・教具、自助具を提供する 教師の役割分担をする
授業づくりシートの記入例	書き方、記入例
授業づくりシート	

「授業実践編」の内容

手順の内容、説明

五つの視点を基にしながら、手順の意図や留意事項について示しています。

具体例

実際に授業に取り入れるイメージをもつことができるよう、手順の項目に関連した具体例を示しています。

関連事項

手順を有効にするためにヒントになるような、関連した内容を示しています。また、「理解編」も合わせて活用できるように関連する記載のあるページを示しています。

授業づくりシートへの記入欄の提示

このページの手順により、「授業づくりシート」に実際に記入していく際の記入欄を枠で囲み示しています。

3 日程の計画を立てる

日程の計画は、見通しをもって学習を進めていけるよう計画を立てることが大切です。

特別支援学校の児童生徒は、初めてのことが苦手だったり、できるようになるのに時間がかかったりします。

しかし、毎日、繰り返して行うことで活動の流れや手順を覚えることができると、落ち着いて活動できます。また、活動に慣れ、定着させることができます。このようにすることで、自信がもって積極的に活動に参加できるようになります。

そこで、日程の計画を立てる場合は、活動が定着するために必要な期間を設定しなければなりません。また、活動に慣れ、発展させるための期間も必要です。

以上のことを考慮して日程の計画を立てることによって、次のようなことをねらいます。

- 活動の流れが分かり、見通しをもって取り組む
- 繰り返しの学習により、知識や技能を定着・向上させる
- 工夫をしたり、友だちと関わったりする等して、自分で積極的に活動する

関連して

日程の計画は、児童生徒にも分かることで学校での学習を楽しみにすることができるようになります。そこで、カレンダーに書き込むなどして授業の予定として表示することが必要です。

そこで、どんな学習が分かることで学校に行くことを楽しみにできるように、日程の計画を設定することが望まれます。このことは、「理解編」のp4、p14、p23を参考にしてください。

このページの手順は、「授業づくりシート」の赤い枠で囲まれた欄に記入します。

具体例

活動の流れが分かる

例えば、木工班の作業でヤスリがけの担当になりました。工程表を作り作業の流れを示し、その流れに従って継続して取り組んでいるうちに、自分の担当のヤスリがけの次の工程が分かり、自分で次の工程に持って行き、依頼や報告をするようになりました。

繰り返しの学習ができる

例えば、ボウリングの単元でペットボトルでピンを作りしました。作り方に慣れてくるとシールのはり方やマジックで模様を描くことが上手になりました。

自分で積極的に活動する

例えば、段ボールのそりで斜面を滑り降りる遊びの時間。毎日繰り返し遊んでいるうちに、友達と一緒に乗ったり、つなげたり、大きさを変えたりしながら、自分たちで工夫して遊びを発展させていくことができました。

「授業実践編」の授業づくりの手順のページの例

授業づくりシート1

1 単元名
サファリパークへ行こう

2 授業の目標
・動物に親しみ、動物を見たり、えさをあげることができる。
・マナーを守って公共の施設を利用することができる。

3 日程計画

日	活動内容	No
7月	校外学習について知る	1
8月	動物について知る・約束の機	2
9月		
10月		
11月		
12月		
13日		
14日		
15日		
16日		
17日		
18日		
19日	サファリパークへ	3
20日		
21日		
22日	事後指導	1

4 活動の流れ

No1				No2			
活動内容	時間	配置図	紙板書	活動内容	時間	配置図	紙板書
1 おはなし	10	1	VTR 約束カード	1 おはなし	10	1	約束カード しおり作り
2 ビデオ	20			2 しおりづくり(約束)	10	2	プリント 動物写真
3 約束	10	1		3 えさやり	20	3	のり、えんぴつ ペン、 えさやり ・ピケット ・かご 小ボール
4							
5							
6							

5 配置図

6 道具の配置について
朝の会と同じ様型こいすを持って集合する。
一列目の机を下げ、前のスペースを空ける。
児童が自分で自分の机を移動する。

7 個別に配慮を要する児童生徒
・Bは、活動が単調になるとパニック状態になるのでプリントや写真をその都度T1に取りに行くようにする。
・Cは、隣の児童を気にするのでT2が間に入って見えないようにする

8 個別に必要な教材・教具・自助具
しおりづくり
・D、Gは、手本を見て書き込み
・Fは、作成手順表。書く見本は、1ページごとにT1からもらう。
・A、B、E、Hは、写真を貼り付ける活動。
プリントHは文字と写真が印刷されたものを使用。
マッチングさせて張る。
・Cは、プリント

9 教師の役割分担
T1: 進行、全体への指示
T2は、A、B、Cを指名された時、前に出るよう肩をたたく、席に戻るときに呼んで席を提示する。
T3は、Hが指名された時、前に出るよう肩をたたく、席に戻るときに呼んで席を提示する。
T2:Cのパニック時に対応
Dの移動時の補助

授業づくりシート2

「授業実践編」の授業づくりシートの記入例

4 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 領域・教科を合わせた指導について岩手県立特別支援学校の教諭への調査を行い、課題について整理し、資料づくりの方向性を明らかにすることができました。
- (2) 領域・教科を合わせた指導の充実のための視点について示し、授業に生かすことができるよう資料を作成することができました。
- (3) 領域・教科を合わせた指導の充実のための資料「理解編」及び「授業実践編」により、担当する教員が共通理解を図りながら授業づくりを行うことができ、授業の修正・改善につながることを確認できました。

2 今後の課題

領域・教科を合わせた指導が、児童生徒一人一人の卒業後の生活の充実につながる一貫した指導となるように、本資料が、学部間の連携や引継資料としても活用されるよう、改善と修正を図り、実践を重ねていくことが必要です。